

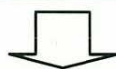
IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則2】

5-2 広がりのあるオギ群集(現状:1ユニット)

検討の視点	広がりのあるオギ群集の保全・再生	
総量維持の 評価指標	①オギ群集の面積 ②水面からの比高	
評価結果	直接改変を受けないため、①、②とも現状から変化しない。	



現存するオギ群集の立地条件と広がりを維持する。

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・配慮を検討すべき「生物の生活空間」】

3-2 礫原草原を確保すべき場所

適度な頻度および強度の攪乱がない礫河原が存在。

▶ 礫河原に特有の植生が生育できる場の再生に努める。

4-1 外来植物群落が入入している場所

シナダレスズメガヤ群落等が生育。

▶ 川底の掘り下げにより除去されるが、その後の順応的管理に努める。

4-2 外来性魚類が入入している場所

オオクチバス等が生息。

▶ 駆除対策に努める。

IV 事業による影響と保全・再生方策等

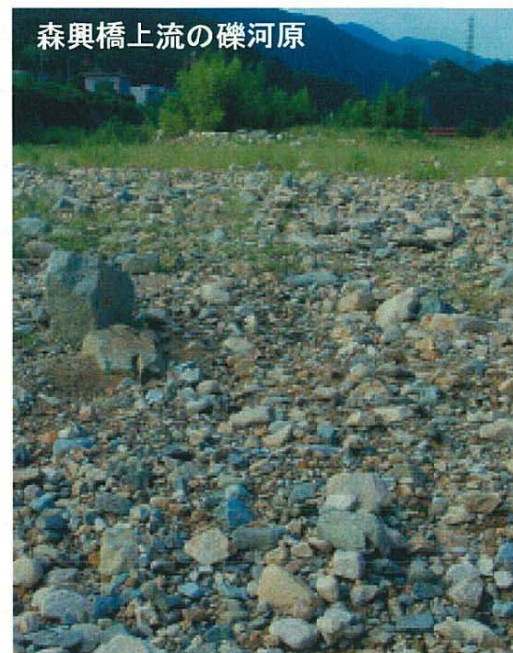
②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【保全・再生方策】

目標：礫河原の再生

- 礫河原と瀬・淵の再生
- 外来植物の除去
- 代償措置としての礫河原の再生* など

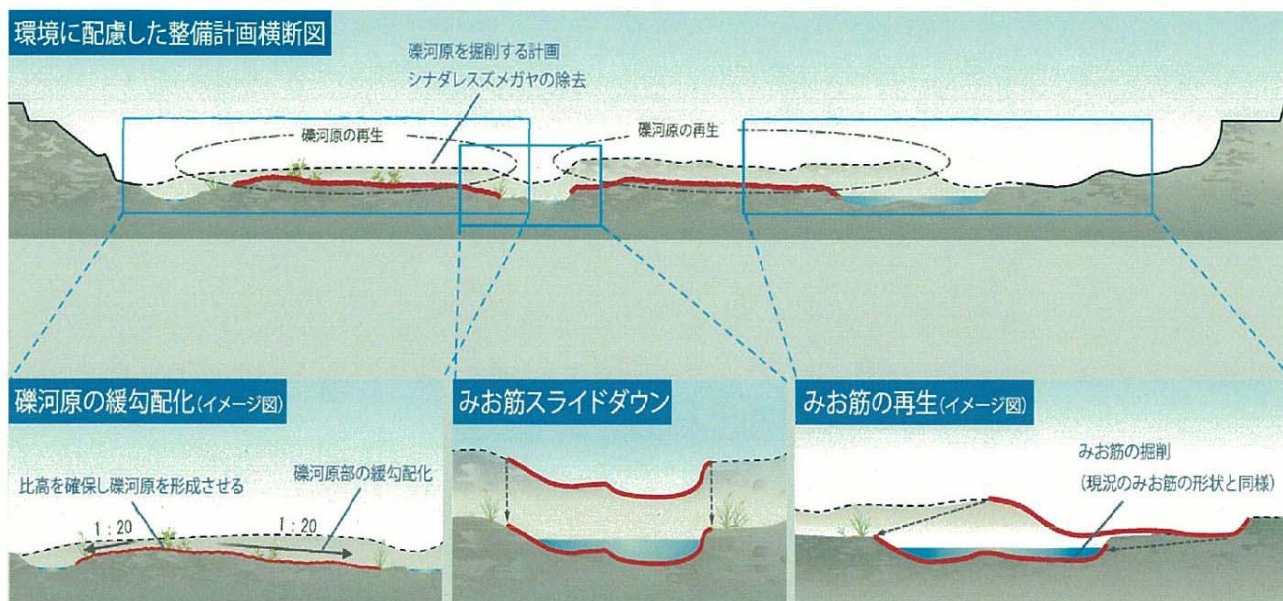
* 当該区間で現状と同程度の礫河原を再生できない場合は、代償措置として区間外での再生を検討。



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【保全・再生方策】礫河原と瀬・淵の再生など



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【区間の総合評価】

- 礫河原や瀬・淵の再生などにより、「2つの原則」を守ることができる。
- この区間の持つ課題についても、外来植物の除去などにより改善される。



IV 事業による影響と保全・再生方策等

③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

【区間の現状】

- 河床勾配が小さく、緩やかな流れが特徴
- タナゴ類をはじめ、貴重種を含む多くの種の魚類、底生動物などが生息・生育
- 全県的にも極めて生物多様性が高い区間



カネヒラ(タナゴ類)

IV 事業による影響と保全・再生方策等

③上流部

【事業計画】

区間長:1.85km

(岩鼻橋～山崎橋)

■ 川底の掘り下げ



IV 事業による影響と保全・再生方策等

③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

【現在の河川環境】

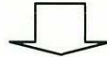
原則1	魚類:アブラボテ、カネヒラ等(7種)
	底生動物:トンガリササノハガイ等(9種)
	植物:オグラコウホネ、ナガエミクリ(2種)
	昆虫類:カヤキリ、スズムシ(2種)
原則2	6-1 在来種が多く生息する場所(4ユニット)
	7-1 重要な種の生息の核となる場所(4ユニット)
配慮を検討すべき「生物の生活空間」	1-1 耐汚濁性種が多く生息する場所
	4-2 外来性魚類が侵入している場所

IV 事業による影響と保全・再生方策等

③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

【影響評価・原則1】

(魚) アブラボテ、カネヒラ等 (底) アオサナエ等	施工時には減少。生息環境を再生しても、種の供給が少ないため、回復には時間を要する。	➡
(底) トンガリササノハガイ等	施工時にはほぼ消失。生息環境を再生しても、種の供給が少なく移動能力が乏しいため、回復には時間を要する。	➡
(植) オグラコウホネ、ナガエミクリ	施工時にはほぼ消失。生息環境を再生しても、種の供給が期待できないため、回復は困難。	➡
(昆) カヤキリ、スズムシ	施工時には減少。生息環境を再生すれば、周辺からの移入により回復が期待できる。	➡



生息・生育場の速やかな回復が必要
移動能力の低い二枚貝類や植物は移植が必要

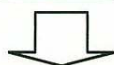
IV 事業による影響と保全・再生方策等

③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

【影響評価・原則2】

6-1 在来種が多く生息する場所(現状:4ユニット)

検討の視点	在来種が多く生息する多様な河床形態の再生	
総量維持の 評価指標	①水理諸量(平均年最大流量時の川幅水深比、無次元掃流力、河床勾配、河床形態) ②みお筋幅の狭い箇所の数	
評価結果	①一部の水理諸量の変化率が目標値を超えるため、河床形態が変化する可能性がある。 ②みお筋幅の狭い箇所がなくなる。	➡



みお筋や瀬・淵等を再生することで質的な改善を図る。

*「7-1 重要な種の生息の核となる場所(現状:4ユニット)」の評価も同様